

## 「犯罪被害者等支援」についてのアンケート結果

誰もが犯罪被害者等（※）となる可能性がある中で、被害者等の方々が置き去りにされることなく、1日も早く、再び平穏な暮らしを取り戻すことができるよう、私たち一人ひとりが犯罪被害者等の置かれている立場を理解し、寄り添いながら、きめ細かな支援に取り組んでいく必要があります。

犯罪被害者等の支援施策に関して、県民の皆さんがどういった意識を持っておられるのかをお聞きして、今後の施策推進に役立てることを目的として、アンケート調査を実施しますので、皆さんの御協力をお願いいたします。

※「犯罪被害者等」とは、犯罪の被害に遭った人や、その家族・遺族のことをいいます。

★調査時期：平成31年1月

★対象者：県政モニター395人

★回答数：326人（回収率82.5%）

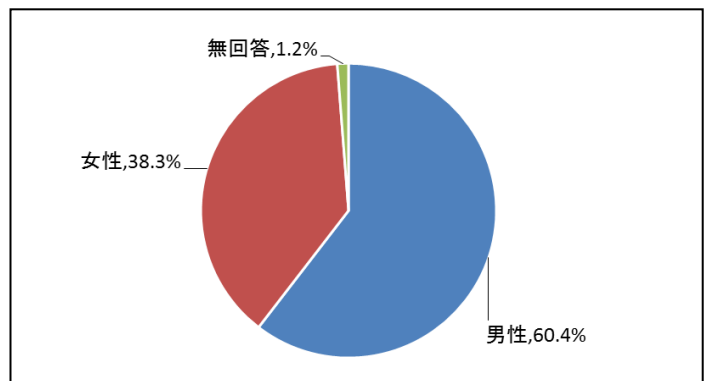
★担当課：県民生活部 県民活動生活課

（※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。）

### 【属性】

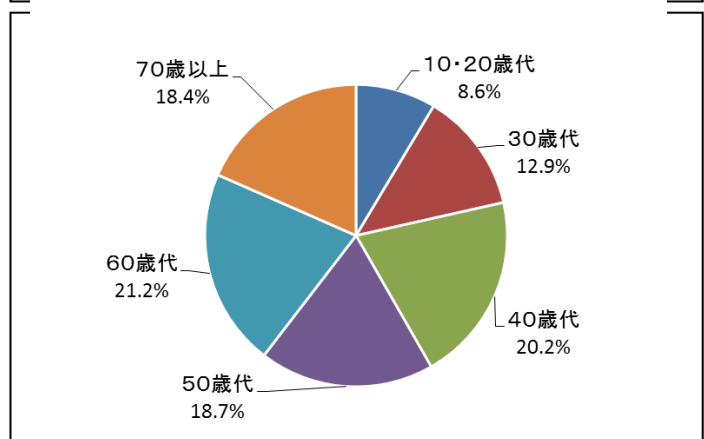
#### ◆性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	197	60.4
女性	125	38.3
無回答	4	1.2
合計	326	100.0



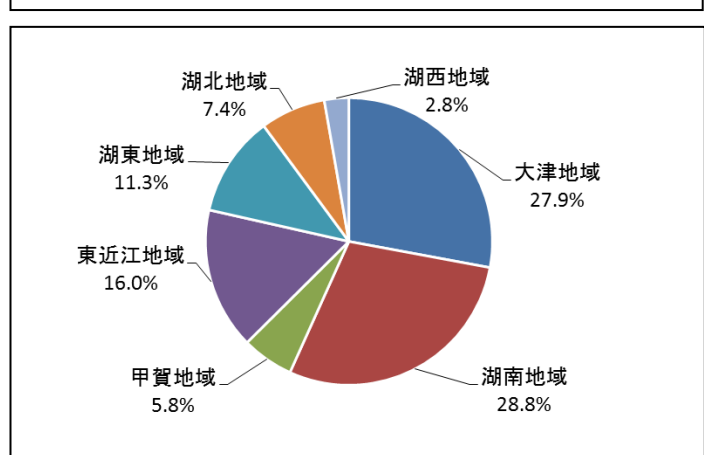
#### ◆年代

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	28	8.6
30歳代	42	12.9
40歳代	66	20.2
50歳代	61	18.7
60歳代	69	21.2
70歳以上	60	18.4
合計	326	100.0



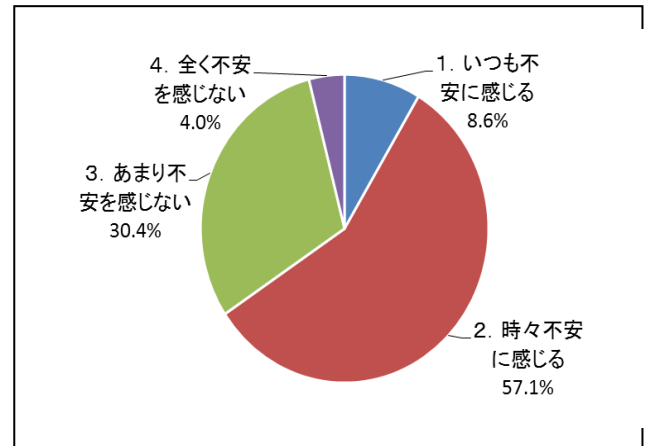
#### ◆地域

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	91	27.9
湖南地域	94	28.8
甲賀地域	19	5.8
東近江地域	52	16.0
湖東地域	37	11.3
湖北地域	24	7.4
高島地域	9	2.8
合計	326	100.0



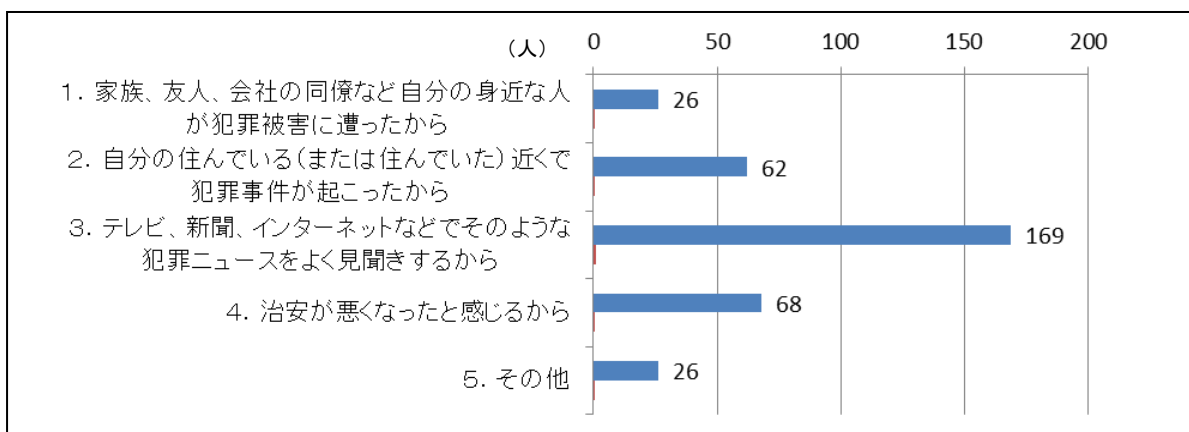
問1 あなたは日常生活において、何らかの犯罪の被害に遭うのではないかと不安を感じますか。(回答チェックは1つだけ。 n=326)

項目	人数(人)	割合(%)
1. いつも不安を感じる	28	8.6
2. 時々不安を感じる	186	57.1
3. あまり不安を感じない	99	30.4
4. 全く不安を感じない	13	4.0
合計	326	100.0



問2 問1で「1. いつも不安を感じる」、「2. 時々不安を感じる」と回答された方にお尋ねします。あなたがそう感じる理由は何ですか。(回答チェックはいくつでも。 n=214)

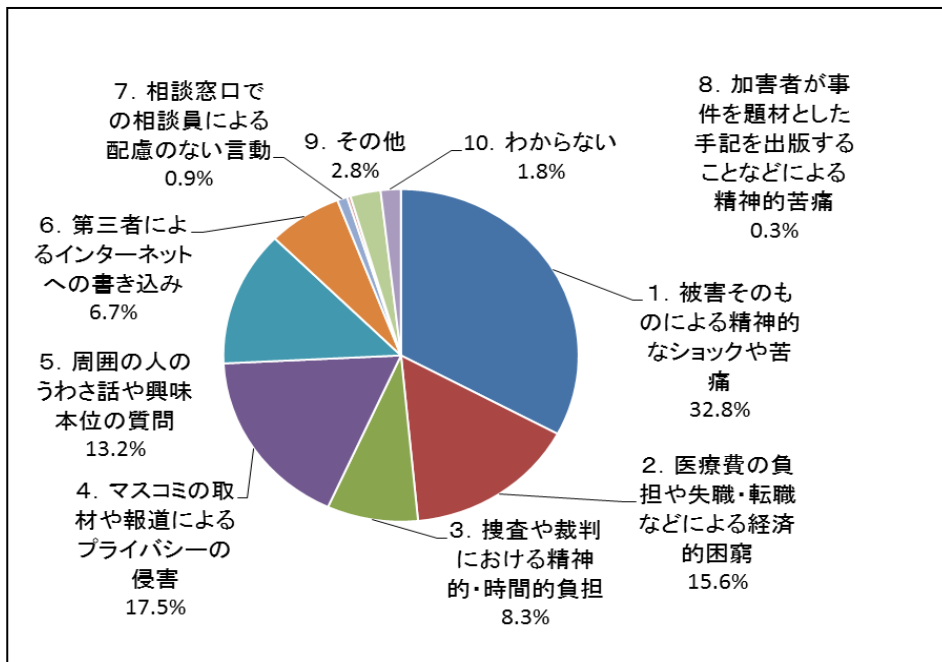
項目	人数(人)	割合(%)
1. 家族、友人、会社の同僚など自分の身近な人が犯罪被害に遭ったから	26	12.1%
2. 自分の住んでいる(または住んでいた)近くで犯罪事件が起こったから	62	29.0%
3. テレビ、新聞、インターネットなどでそのような犯罪ニュースをよく見聞きするから	169	79.0%
4. 治安が悪くなったと感じるから	68	31.8%
5. その他	26	12.1%



問3 犯罪被害者等は、生命、身体、財産上の直接的な被害を受けるだけでなく、「更なる被害」（二次的被害、被害後に生じる様々な問題）に苦しめられます。次の更なる被害のうち、あなたが最も問題だと思うものを選んでください。

(回答チェックは1つだけ n=326)

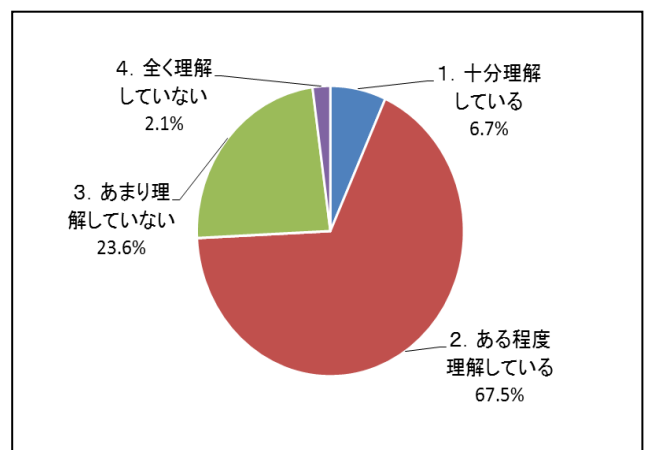
項目	人数(人)	割合(%)
1. 被害そのものによる精神的なショックや苦痛	107	32.8
2. 医療費の負担や失職・転職などによる経済的困窮	51	15.6
3. 捜査や裁判における精神的・時間的負担	27	8.3
4. マスコミの取材や報道によるプライバシーの侵害	57	17.5
5. 周囲の人のうわさ話や興味本位の質問	43	13.2
6. 第三者によるインターネットへの書き込み	22	6.7
7. 相談窓口での相談員による配慮のない言動	3	0.9
8. 加害者が事件を題材とした手記を出版することなどによる精神的苦痛	1	0.3
9. その他	9	2.8
10. わからない	6	1.8
合計	326	100.0



問4 犯罪被害者等が、犯罪による直接的な被害だけでなく、問3のような「更なる被害」にも苦しめられるということについて、あなたはどの程度知っていますか。

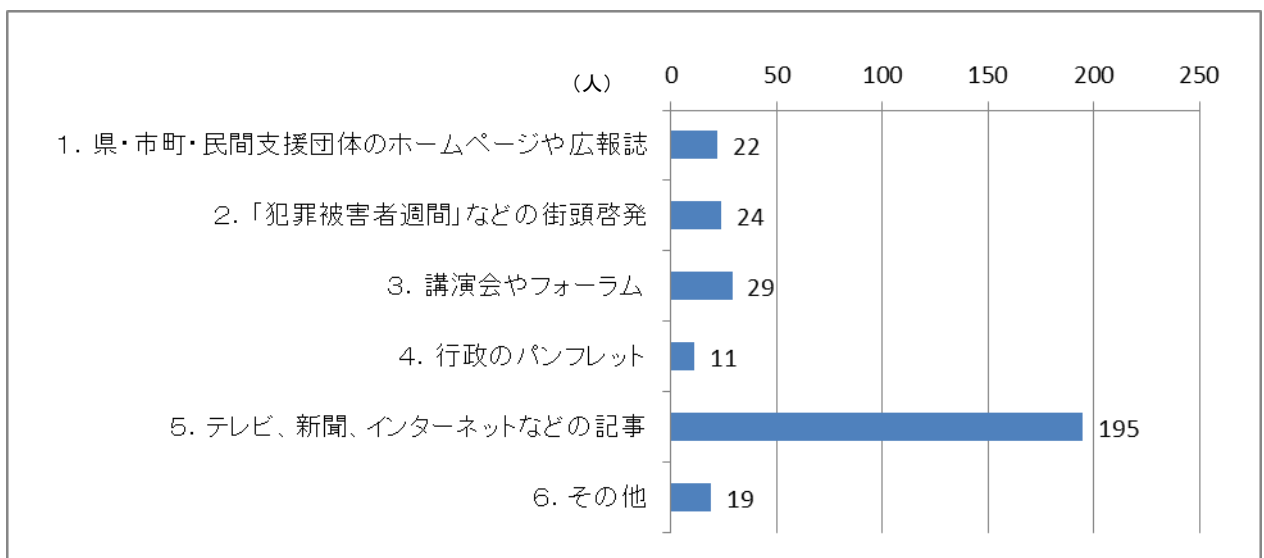
(回答チェックは1つだけ n=326)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 十分理解している	22	6.7
2. ある程度理解している	220	67.5
3. あまり理解していない	77	23.6
4. 全く理解していない	7	2.1
合計	326	100.0



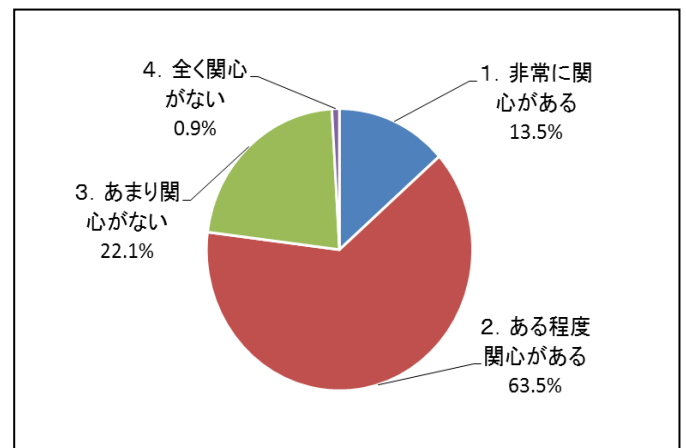
問5 問4で「1. 十分理解している」、「2. ある程度理解している」と回答された方にお尋ねします。あなたが、犯罪被害者等が置かれている状況を理解するようになったきっかけは何ですか。(回答チェックはいくつでも n=242)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 県・市町・民間支援団体のホームページや広報誌	22	0.9
2. 「犯罪被害者週間」などの街頭啓発	24	1.0
3. 講演会やフォーラム	29	12.0
4. 行政のパンフレット	11	4.5
5. テレビ、新聞、インターネットなどの記事	195	80.6
6. その他	19	7.9



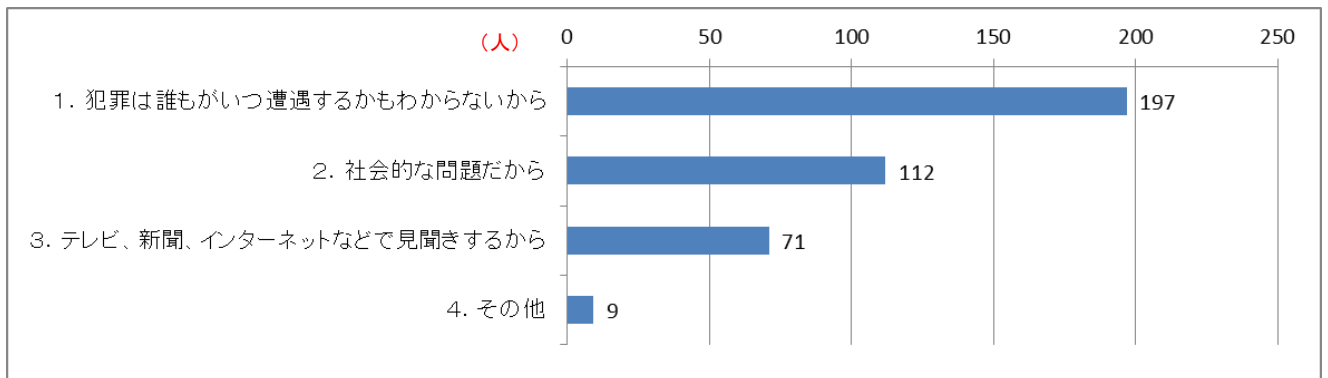
問6 犯罪被害者等の支援施策として、情報提供や相談を行う総合的窓口の設置、弁護士などによる専門的な相談、見舞金や生活資金の援助などがありますが、あなたは犯罪被害者等支援に対してどの程度関心がありますか。(回答チェックは1つだけ n=326)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 非常に関心がある	44	13.5
2. ある程度関心がある	207	63.5
3. あまり関心がない	72	22.1
4. 全く関心がない	3	0.9
合計	326	100.0



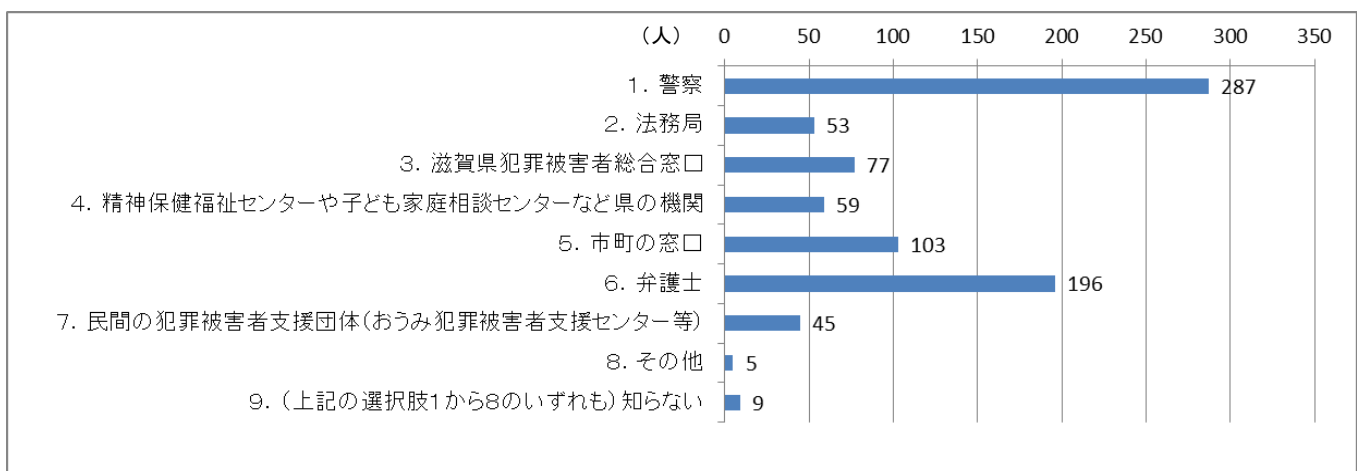
問7 問6で「1. 非常に興味がある」、「2. ある程度興味がある」と回答された方にお尋ねします。あなたがそう感じる理由は何ですか。(回答チェックはいくつでも n=251)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 犯罪は誰もがいつ遭遇するかもわからないから	197	78.5
2. 社会的な問題だから	112	44.6
3. テレビ、新聞、インターネットなどで見聞きするから	71	28.3
4. その他	9	3.6



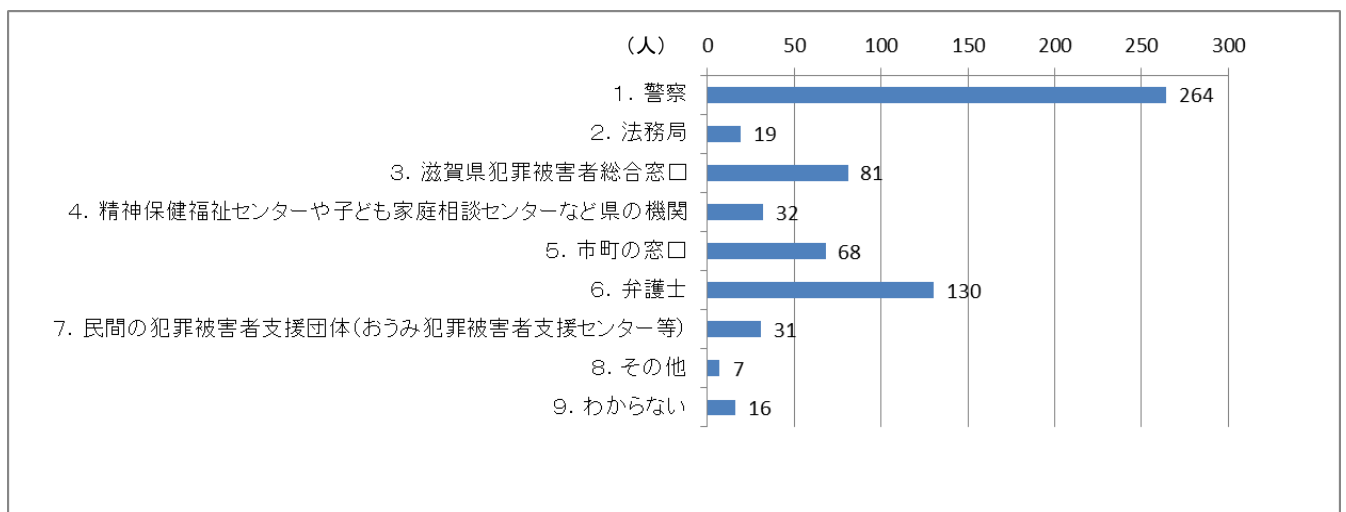
問8 万が一、あなたや家族が犯罪被害に遭った場合、利用できる相談窓口としてどのようなものを知っていますか。(回答チェックはいくつでも n=326)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 警察	287	88.0
2. 法務局	53	16.3
3. 滋賀県犯罪被害者総合窓口	77	23.6
4. 精神保健福祉センターや子ども家庭相談センターなど県の機関	59	18.1
5. 市町の窓口	103	31.6
6. 弁護士	196	60.1
7. 民間の犯罪被害者支援団体(おうみ犯罪被害者支援センター等)	45	13.8
8. その他	5	1.5
9. (上記の選択肢1から8のいずれも)知らない	9	2.8



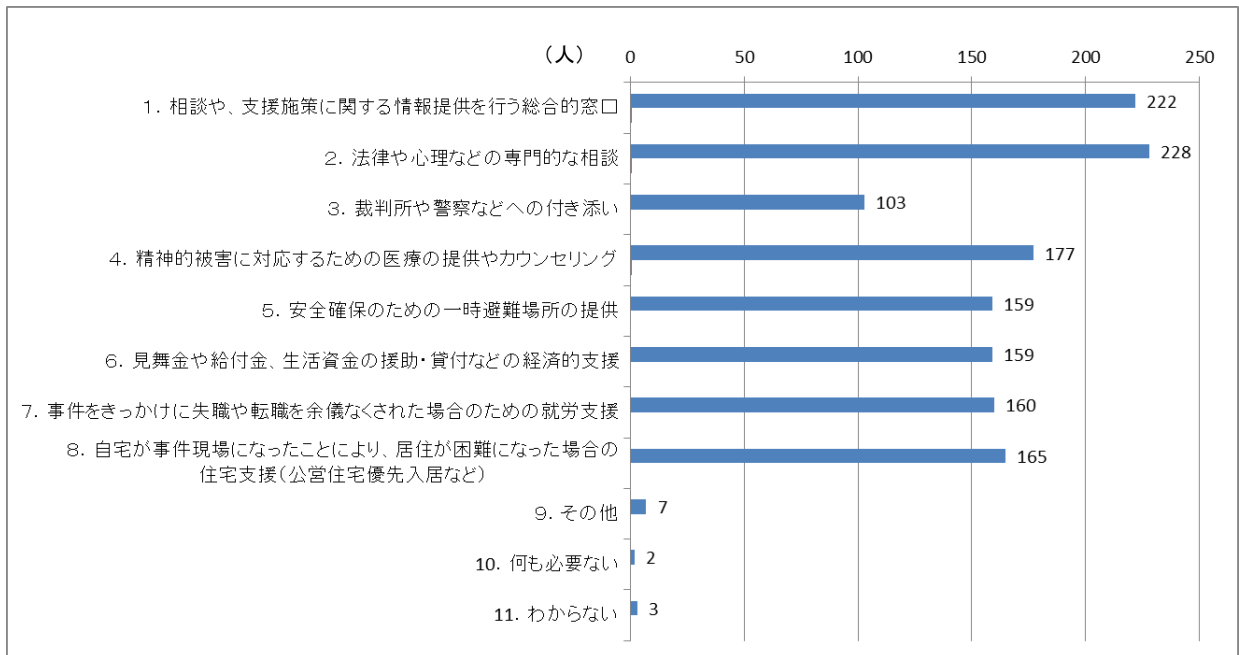
問9 万が一、あなたや家族が犯罪被害に遭った場合、どこ（または誰）に相談すると思いますか。（回答チェックは3つまで n=326）

項目	人数(人)	割合(%)
1. 警察	264	81.0
2. 法務局	19	5.8
3. 滋賀県犯罪被害者総合窓口	81	24.8
4. 精神保健福祉センターや子ども家庭相談センターなど県の機関	32	9.8
5. 市町の窓口	68	20.9
6. 弁護士	130	39.9
7. 民間の犯罪被害者支援団体（おうみ犯罪被害者支援センター等）	31	9.5
8. その他	7	2.1
9. わからない	16	4.9



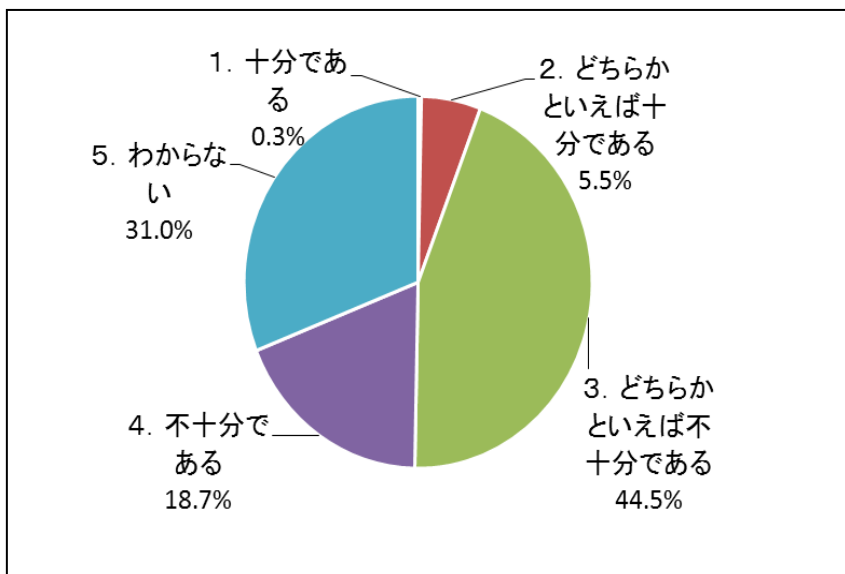
問10 万が一、あなたが犯罪被害に遭った場合、どのような支援が必要だと思いますか。（回答チェックはいくつでも n=326）

項目	人数(人)	割合(%)
1. 相談や、支援施策に関する情報提供を行う総合的窓口	222	68.1
2. 法律や心理などの専門的な相談	228	69.9
3. 裁判所や警察などへの付き添い	103	31.6
4. 精神的被害に対応するための医療の提供やカウンセリング	177	54.3
5. 安全確保のための一時避難場所の提供	159	48.8
6. 見舞金や給付金、生活資金の援助・貸付などの経済的支援	159	48.8
7. 事件をきっかけに失職や転職を余儀なくされた場合のための就労支援	160	49.1
8. 自宅が事件現場になったことにより、居住が困難になった場合の住宅支援（公営住宅優先入居など）	165	50.6
9. その他	7	2.1
10. 何も必要ない	2	0.6
11. わからない	3	0.9



問 11 あなたは、現在の犯罪被害者等支援の施策については十分に行われていると思いますか。(回答チェックは1つだけ n=326)

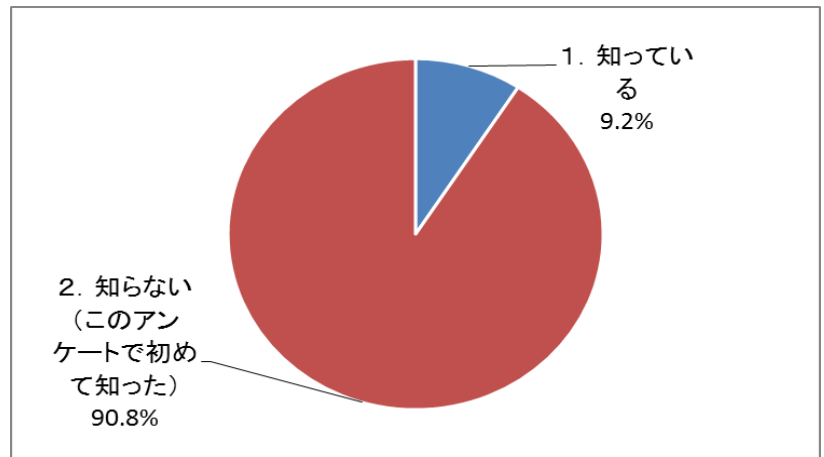
項目	人数(人)	割合(%)
1. 十分である	1	0.3
2. どちらかといえば十分である	18	5.5
3. どちらかといえば不十分である	145	44.5
4. 不十分である	61	18.7
5. わからない	101	31.0
合計	326	100.0



問 12 県では、性暴力被害者への総合的な支援を可能な限り1か所で提供するため、「性暴力被害者総合ケアワンストップびわ湖(通称)SATOCO(サトコ)\*」を平成26年4月に開設し、24時間ホットラインによる相談、産婦人科医療、付き添い支援などを行っています。あなたは、SATOCOのことを知っていますか。(回答チェックは1つだけ n=326)

\*「SATOCO」は、Sexual Assault victim TOtal Care One stop BIWAKO (性暴力被害者総合ケアワンストップびわ湖)の略で、滋賀県産科婦人科医会、公益社団法人おうみ犯罪被害者支援センター、滋賀県警察、滋賀県の4者が連携して産婦人科医療の提供や付き添い支援などを行っています。

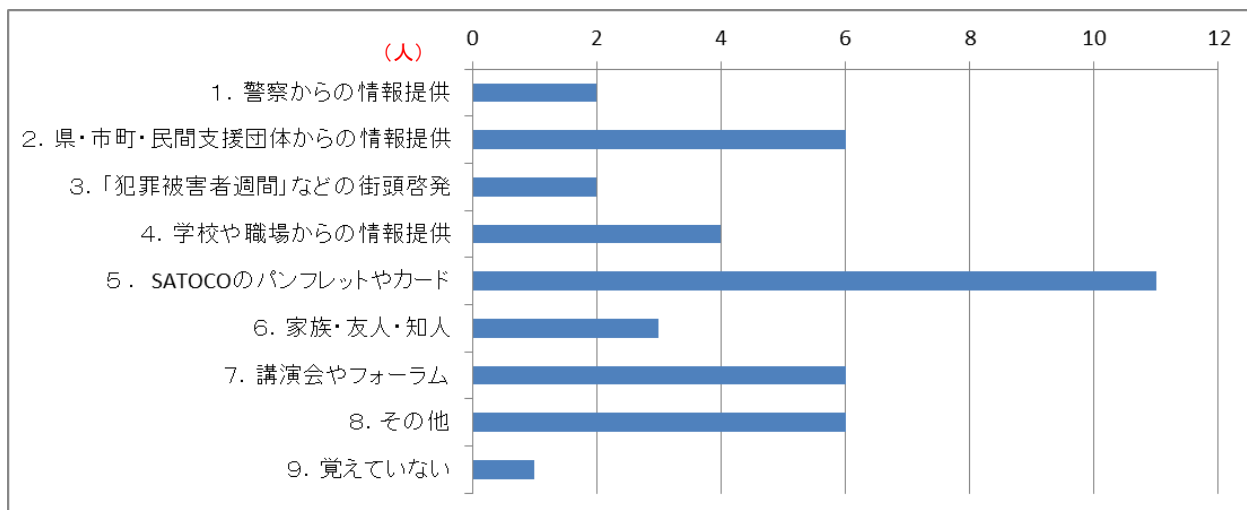
項目	人数(人)	割合(%)
1. 知っている	30	9.2
2. 知らない (このアンケートで初めて知った)	296	90.8
合計	326	100.0



問 13 問 12 で「1. 知っている」と回答された方にお尋ねします。あなたが、SATOCOを知ったのはどのような方法ですか。(回答チェックはいくつでも n=30)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 警察からの情報提供	2	6.7
2. 県・市町・民間支援団体からの情報提供	6	20.0
3. 「犯罪被害者週間」などの街頭啓発	2	6.7
4. 学校や職場からの情報提供	4	13.3
5. SATOCO のパンフレットやカード	11	36.7
6. 家族・友人・知人	3	10.0
7. 講演会やフォーラム	6	20.0
8. その他	6	20.0
9. 覚えていない	1	3.3



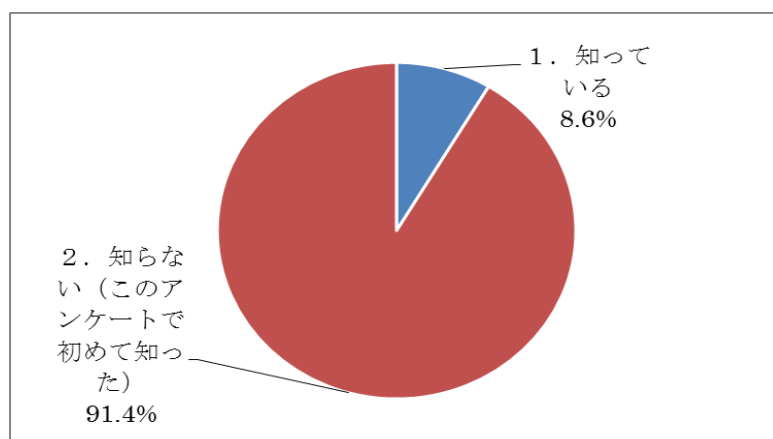


問 14 平成 30 年 4 月に「滋賀県犯罪被害者等支援条例」が施行されました。あなたは条例ができたことを知っていますか。(回答チェックは1つだけ n=326)

※滋賀県犯罪被害者等支援条例 (県 HP)

<http://www.pref.shiga.lg.jp/c/kensei/20180401.html>

項目	人数(人)	割合(%)
1. 知っている	28	8.6
2. 知らない (このアンケートで初めて知った)	298	91.4
合計	326	100.0



問 15 犯罪被害者等支援に関して、御意見がありましたら記入してください。

(一部抜粋)

◎犯罪被害者等支援全般について

- ・ 犯罪被害者を、充分救済して欲しい。被害の相談を受け付ける立場の人は、本当に真剣に被害者に寄り添って、解決に努力すべき。安心して相談できる体制をとってほしい。犯罪被害に遭う確率は、交通事故と同じで、いつどこで襲われるか分からない。
- ・ 被害者の肉体的、精神的なケアが大切だと思う。手を差し伸べようと考えていても、無知から無意識にその方や、周りの人をさらに傷つけてしまわないか、接し方が解らない。
- ・ デリケートな問題なので、サポートも大変だとは思いますが、専門家を交えて適切なサポートができるようにしてもらいたい。
- ・ 被害者の方が泣き寝入りをするのがないよう、いろいろな面での十分なケアや支援等を望みます。
- ・ まず経済的な支援策だけでも充実させたい。ほかにも必要なことはたくさんあるが、経済的な支援が受けられれば少し余裕ができそうに思う。
- ・ 犯罪被害者とその家族の人権、安全を確保できる仕組みづくりが必要。

#### ◎犯罪被害者等支援全般について

- ・特に子どもを巻き込んだ犯罪に不安になる。経験がないので、想像が及ばない。もしも犯罪のとき、一番に相談するのが警察しか思い浮かばなかったのが、警察から支援機関の情報を聞けたらと思う。
- ・犯罪を犯罪と認知し、誰もが被害届を提出でき、被害届を受理してもらえるようになればと思う。
- ・警察は被害に遭わなければ動いてくれないが、事前にその兆候がある場合はもっと積極的に犯罪防止策を講じるべきである。
- ・刑法犯罪であっても、損害賠償などの民事裁判を起こして、仮に勝てたとしても犯罪者側に支払い能力や支払う意思がない場合は、結果的に経済的な面は何ら救済されない状況である。国や公共団体が立替払いなどして、犯罪者から強制的に取り立てるなどの対策を検討すべき。
- ・昨年、ホンデリングという仕組みを何度か利用して「犯罪被害者支援の寄付」をしました。資源ごみとして書籍を廃棄しないで、この仕組みを利用することが良いと思う。

#### ◎相談窓口について

- ・相談窓口が形式的・事務的にならず被害者やその家族に対して親身に相談に乗ることや、窓口のたらい回しにならないように横のつながりを密にしてほしい。
- ・突然自分や近親者に起こった場合、どうすればいいのか、誰に相談すればいいのか、まったくわからないと思った。きっと同じように知らない人も多いと思う。被害にあった方に警察でどこへ行けばいいのか知ることができるようにしてほしい。
- ・被害者も加害者も1番に警察に・・・と頭に浮かぶのは間違いないと思うが、意外に相談窓口は分かってなく問題が後からになり大きな問題になることもあるのでは？と思う。どんな事でも相談できる市民窓口があれば良いのにとと思う。

#### ◎更なる被害（心理的負担、経済的負担等）について

- ・テレビなどのニュースで見聞きすると、被害にあわれた人のプライバシーは本当に守られているのかと思ってしまう。SNS等の拡散によって被害者も加害者もその家族たちにも更に被害が広がるのが怖い気がする。
- ・被害者の二次的被害（精神的、経済的）については行政が受け皿として責任を持って積極的な対応が重要である。犯罪の撲滅は限界があるので、現実的な対応として被害者支援は重要かつ必要である。
- ・犯罪の被害者になった際には身体的なことはもちろんのこと、精神的なダメージが大きいのではないかと。犯罪者の逆恨みなどの恐怖を払拭するためにも十分反省できるだけの重刑を与えるとともに出所後の監視も怠らぬに行い被害者が安心して生活できるようにしてもらいたい。
- ・最近では、インターネットや SNS などで間違えた情報や、個人情報流れ、全く関係ない人が攻撃される、二次被害が発生している。対策が必要。
- ・インターネットの普及に伴い、犯罪被害者のプライバシー情報などが瞬く間に拡散し、第三者からの掲示板への誹謗中傷書き込みがされるなど非常に根の深い問題だと思う。行政として情報拡散抑止など必要な施策がとれるようになれば良いと思う。
- ・犯罪そのものより、後の方がはるかに長い時間精神的に苦しめられる！ネット社会の怖さを思い知らされる！だからこそ、すぐに寄り添える場所や窓口は専門分野の人が必要。

◎更なる被害（心理的負担、経済的負担等）について

- ・マスコミでは加害者よりも被害者の個人情報が大きく流れることがある。「報道の自由」の建前に泣く人々が多いと思う。被害者感情を無視した「正義感にあふれる」悪質なマスコミから守ってもらえるのでしょうか。

◎性被害、性暴力被害者総合ケアワンストップびわ湖（SATOCO）について

- ・SATOCOについて、講演で知った。若い人たちの被害を知ると怒りがおさまらない。被害を受けてからの支援は大事。と共に、被害を受けないよう自身のリスクを意識することは大事です。さらに学校での安全教育、職場での研修、家族からの声かけも大事だと考える。
- ・犯罪被害者への支援はもちろん重要ですが、性犯罪（痴漢）加害者へのカウンセリングや再犯防止の取り組みもあわせて充実させてほしい。
- ・女性が性被害者にあうケースが多いと思うが、男性が性被害者にあうケースもある。特に男性の性被害者の場合、世間の興味本位な質問、誤解、または嘘でしょと言われるなど泣き寝入りも少なくない。ぜひ男性も女性も両方が被害にあうことを周知してほしい。

◎広報啓発について

- ・こういう施策があるのもこのアンケートで知った。知らないと役には立たないなと思った。学校や地域での学習の場がほしい。
- ・まさか、こんな田舎で・・・が通用しない社会になり、いつ、どこであってもおかしくない世間だけに犯罪被害教育は子供から大人まで学べる環境が必要。
- ・定期的に冊子などを配布してもらおうと有り難い。
- ・実際に誰もが被害者になりうるので、何かあった時の窓口をわかりやすく周知してほしい。
- ・子供の教育を充実するべきと思う。さらに我々、大人も子供の手本になれるよう行動するべき。防犯カメラなどで抑止すること同時に、ソフト面の対策も犯罪対策になるかもしれない。
- ・未然防止策の為の自治会単位での勉強会を年1回警察官が行なえば、警察官とのコミュニケーションができるよい機会になる。

◎安全なまちづくりについて

- ・不幸にして犯罪に遭遇した人達を行政が救済支援することは大切な措置であるが、一方では犯罪を起こさせない安全で安心な町づくりが重要である。そのためには行政に任せるだけでなく町内会や学区単位で安全で安心な地域コミュニティづくりに県民挙げて努力すべきだ。
- ・犯罪被害者になる可能性は誰でもある。支援することは重要。社会の中で被害者の心内を察し助け合う機運が必要。被害者にならないと苦しみはわからないと思うが、そのことを被害者になる前に感じとる気持ちが必要。そのためには啓蒙活動が必要であると考え。その先に、犯罪が起こらない社会を目指すことが重要。
- ・根本的に犯罪をなくす、犯罪のない社会にすることが必須だと思う。警察や地域ボランティアの見回りなど、強化をお願いしたい。
- ・犯罪被害者に対する支援はしっかりやっていかなければならない。しかし大切なのは、犯罪を犯さない人、社会づくりにもっともっと力を入れるべきだ。社会の風潮をそんなことをするのは恥だ・やっちはいけないのだという雰囲気、また個々の人の心の教育が大切。